

(2) 分析結果について

1) ガラス瓶

球状のガラス瓶内の透明な液体は硫酸水溶液であった。もう一つの白い結晶が入っていたと思われたものは、グラスウールと硫酸水溶液であった。

広口瓶は土壌の混入した中性水溶液であった。

割れていた瓶を含む4つの瓶からは、化学剤及びその関連化合物は検出されなかった。

瓶	栓の方法	内容物	分析結果
A	ガラス栓で密栓し、ろうで密封。	23%程度の硫酸水溶液(約150mL) 色：淡黄	化学剤関連物質は検出されず。
B	ガラス栓で密栓し、ろうで密封。	1.5%程度の硫酸水溶液(約25mL)とグラスウール 色：淡黄	化学剤関連物質は検出されず。
C	口元が破損。	土壌が付着。 内容物はなし。	化学剤関連物質は検出されず。
D	プラスチックねじ口	土壌の混入した中性水溶液 色：無色	化学剤関連物質は検出されず。

2) 土壤

採取した土壤4検体のうち2検体からマスタード及びその関連化合物が微量検出された。別の検体からくしゃみ剤の関連化合物の疑いのある、トリフェニルアルシンが痕跡程度確認された。

さらに別の検体から土壤溶出試験の結果、環境基準の約6倍のヒ素が検出された。

土壤No	採取位置	分析結果
1	山留め孔の中	化学剤関連化合物は検出されず。 土壤溶出試験の結果、環境基準の約6倍のヒ素を検出した。
2	残土の土中	以下の化学剤関連化合物が検出された。 ・トリフェニルアルシン [痕跡程度] ヒ素検出されず。
3	残土の表面	以下の化学剤関連化合物が検出された。 ・マスタード [微量] ・マスタードジスルフィド [痕跡程度] ・1,4-ジチアン [微量] ヒ素検出されず。
4	残土の表面	以下の化学剤関連化合物が検出された。 ・マスタード [微量] ・マスタードジスルフィド [痕跡程度] ・1,4-ジチアン [微量] ヒ素検出されず。

3. 現在の対応

1) 現場の対応

- ① 工事は、4月4日付けで中止している。
- ② 敷地は、工事着手当初から設置していた仮囲い（高さ約3mの鋼製の囲い）、及び、入り口（2箇所）に24時間体制で配置している警備員により、立ち入りを禁止している。
- ③ 「マスタード」等が検出された土壌は、検出された「マスタード」等が微量であり、これまでのNBC対策隊の検知の結果、空気中からは「マスタード」等が検出されていないことから、ビニールシートで覆ったうえで周辺を柵で囲み、立ち入りを禁止している。
- ④ 住民説明会での要望を受け、「マスタード」等が検出された土壌に限らず、土壌の露出部分は全てビニールシートで覆っている。



2) 安全対策連絡会議

国土交通省、神奈川県、神奈川県警察、平塚市による「平塚第2地方合同庁舎工事現場の危険物に関する安全対策連絡会議」を4月28日に開催した。

第一回 平塚第2地方合同庁舎危険物の調査等に関する有識者委員会

平成15年5月13日(火) 16:00~18:00

ワークピア横浜 3階「いちよう」

1. 審議事項

(1) 当面の措置

① 現場の安全対策について

(2) 調査方針

① 敷地内の調査方法について

② 場外搬出済み土壌の安全確認方法について

③ 調査時の留意事項について

2. 決定事項

(1) 当面の措置

① 現場の安全対策

化学剤が気化し拡散すること等による周辺への影響は考えにくいですが、現場の安全対策としては、土壌の飛散・拡散を防止するためにも、立ち入り禁止措置及びシートにより土壌を覆う措置を継続する。

② 保管庫の設置

「マスタード」等が検出された土壌は密封したうえで、敷地内に設置する保管庫に移す。

(2) 調査方針

① 本格的調査方法検討のための事前調査

本格的調査方法を検討するための事前調査として、敷地全面について、概ね10m間隔でボーリング(周辺地盤面から約3mの深さまで、計26箇所)を行い、危険物の有無についての土壌調査を行う。

また、危険物が検出された箇所については、試掘(発見箇所を中心として直径2m程度、深さ約3m)を行う。

② 場外搬出済み土壌の分析

不審物の発見以前に場外に搬出した土壌から試料を採取し、危険物の有無を確認する。

③ 調査時の作業員及び周辺的安全確保

現場の事前調査の際は、作業員及び周辺への影響に十分留意する（小規模なテント、ガス検知器、防護具等）。

④ 関係機関との緊急時の連絡体制の確保を図る。

⑤ 現場事務所の移設

現場事務所敷地も調査対象とすることから、事務所を移設する。

(3) その他

① 今後の予定

事前調査結果を踏まえ、次回（6月末～7月初）の委員会において本格的調査方法等を検討する。